

平成 27 年度市自委第 5 号協働パイロット事業

「移住歓迎プロジェクトの受け皿としての

「ツーリストセンター」の運営」業務

特定非営利活動法人 複合力

1 事業の目的・趣旨

両河内の子育て世代の地域外への流失や、住民の高齢化は加速度を増し、清水区の水源地域として市民の生活を守るという重要な役割を担っている興津川の源流域・両河内にとり、「過疎化“予防”対策」は緊急の課題となっている。

そのような状況の中にあっては、地域外からの交流者を増やし、地域に元気を取り戻し、移住者を呼び込むことに繋げる日常活動は効果的な対策です。

私たちNPO法人複合力は、市の人口減少対策として都市部に開設した移住推進センターの設置に呼応して、移住コンシェルジュの役割を担い、移住者の受入れの一助になりたいと考え本事業を推進することにしました。

2 事業概要

- (1) 事業期間 平成27年7月1日から平成28年3月31日まで
- (2) 実施箇所 静岡市清水区西里地区

3 実施スケジュール

平成27年

7月13日：ビジターセンターの看板を設置し、交流・移住・定住支援事業としての「移住コンシェルジュ」活動を開始。

7月：地域情報の提供ツール「おもしろ不思議MAP」を増刷し配布を開始。

8月：協働する移住支援センター（有楽町交通会館）の職員2名と顔合わせ。

8月：空き古民家の権利関係等の環境整備を行い、移住者用住宅として再利用する活動を開始。

8月：体験農場、貸切り古民家、ラボラトリーショップCOMO、ビジターセンターを有機的につなぐ、回遊型・着地型観光の推進を開始。

11月24日：体験農場、ラボラトリーショップCOMOは冬季休業に入る。貸切り古民家、ビジターセンターは活動を継続。

平成28年

3月13日：体験農場、ラボラトリーショップCOMO再開。

3月31日：事業終了。

4 実施内容

(1) ツーリストセンターの設置

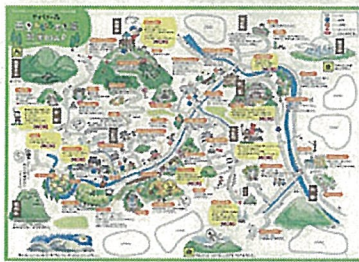
- ①対象者 交流移住定住希望者
- ②内容 同団体の活動拠点「ラボラトリーショップ“como(コモ)”」

に「ビジターセンター」の機能を付加し、特定非営利活動法人複合力が「移住コンシェルジュ」の役割を担い、東京を始めとする都市部や市街地からの移住を推進する活動の拠点とした。また、来訪者への地域情報の提供や、地域の空き家を移住者住宅に転用するための活動も恒常化した。

7月：ビジターセンターの看板を設置



7月：おもしろ不思議MAP増刷



8月：移住支援センター紹介の移住希望者・横山氏、来園

8月：交流活動「市民の力でビオトープ復活大作戦」主催



8月18日静岡新聞に掲載

- 8月：空き古民家の移住者用住宅へ改修するなどの為の権利関係調査を行政書士へ依頼
- 9月：権利関係者を訪問、空き農家の利活用を申し入れる
- 1月：東京出張（横山宅や権利関係者宅を現地調査）
- 1月：市内からの移住希望者早川さんへ、空き住宅を紹介
- 2月：中山間地振興課紹介の移住希望者の南岡&森さんが来園、空き住宅を紹介
- 2月：オランダ人のウーフを受入れる



- 3月：移住希望者の南岡、森さんの二人が鎌倉から移住
- 3月：COMO冬季休業から覚めて開店
- 桜まつりで交流事業に参加



(2) 宿泊施設の提供

- ①対象者 交流移住定住希望者
- ②内容 本団体の管理する宿泊施設「貸切り古民家“安来里”」を

“田舎暮らし体験処”として提供。

7月から11月までの土日祝日は、ほぼ予約で満杯で約600の方が田舎暮らし体験。

平成28年に入り2月には、オランダ人のウーフが1週間宿泊し農業や日本の田舎暮らしを体験。



座禅や精進料理も体験

(3) 現地視察案内の実施

①対象者 交流移住定住希望者

②内容

・現地視察案内を実施した。

・視察参加者から得られた意見等を市に提供した。

10月：移住希望者の陶芸家が来園、一緒に空き家探し

2月：移住希望者、島田市在住の小畑さんが現地視察

3月：中山間地振興課紹介の移住希望者が来園、
空き住宅を視察

3月：移住希望者の高江さんが来園、地域事情を紹介

3月：移住希望者の佐藤さんが来園、地域事情を紹介

3月：市内の移住希望者の平野さん夫婦を現地ガイド



(4) 移住後の生活支援活動の実施

①対象者 移住者

②内容

3月に鎌倉から移住した南岡、森さんの歓迎会を行い、定住するについての様々な相談をした。

また、桜まつりイベントと一緒に参加してもらうなどして移

住後の地域住民や市街地住民との交流を通じた仲間づくりや、生活支援活動を実施。

5 実施の結果

(1) 協働の効果

- ①一組の移住者を受入れ、定住支援を続けている。
- ②一軒の空き家の権利関係を調整し移住者用住宅として活用を開始。
- ③約1000枚の「おもしろ不思議散策MAP」を、清水森林公園やすらぎの森の来訪者へ配布するなどして交流支援を行った。

(2) 今後への提言

本事業で行った「清水森林公園やすらぎの森の交流・移住・定住情報のワンストップサービス」を両河内全域に広げたいです。
手遅れになってしまう前に、積極的に移住者を受入れるなどした両河内の“過疎化予防策”として推進できるよう市としての援助をお願いしたいです。

(3) 移住希望者の感想

旧清水市が全国に先駆けて創設した「清水森林公園やすらぎの森」は、約30年を経た今、中山間地の暮らしぶりの魅力を保存するという、思いもよらなかった好結果に繋がっています。
来園者からも『良い所だねー』という感想をたくさんいただいています。

(4) 協働相手（企画課職員）の意見・感想

移住推進センターのスタッフからは『あなた達がいなければ仕事がで
きなかつたでしょう』との好印象の感想をいただいています。
企画課からは『中山間地振興課の移住推進事業としたいので、来年度は
企画課としては本事業を行わない。』という意見をいただいています。

6 協働・協力機関

企画課

移住推進センター（有楽町交通会館）

中山間地振興課

7 担当スタッフ

- (1) 松永茂春 (ビジターセンター担当)
- (2) 村上 勝 (西里地区担当)
- (3) 加藤伸一郎 (河内地区担当)